



高柳・嶽ねぎの会

泉 徹也

IZUMI TETSUYA

1960年 柏崎市出身

「高柳・嶽ねぎの会」は発足から3年目。市内高柳町石黒の標高600mの山あい、嶽地区の長ネギが今年の収穫へ向けて大きく育っている。

会長を務めるのは、元高柳小学校の校長を定年まで4年間務めた泉徹也さん。泉さんと高柳との関係は深い。

当時、高柳小は児童の人数も少なかったため、泉さんは運動会など、学校行事があるたび、常に地域の方へ声を掛けて協力や参加をお願いした。子どもたちや職員を連れて地域へ出かけることも多く、「日本の棚田百選」にも選ばれた「花坂の棚田」を見学したり、職員を誘って水源を見に行ったりと積極的に地域と関わり続けた。地元の人たちからは、「地元の人よりも高柳のことを知っている」といわれるほどだった。

そんな中、子どもたちの総合的な学習で、棚田で米作りをする農家の中村稔さんから米作りを教わり関係が深まった。中村さんが住む板畑集落は昔から養蚕が盛んに行われたが、30年ほど前からは長ネギを育てている。中村稔さんが嶽地区で育てる長ネギは太くて甘みがあり、「稔さんのネギください」と買いに来る人もいるくらい地元でも評判で、泉さんもこの

長ネギを毎年楽しみにしていたという。

退職から1年後、「中村さんが高齢を理由に長ネギの栽培をやめると言っている。あとを継がないか」と地元の田辺和幸さんから連絡を受けた。「少し考えさせてください」と言ったものの、自分には経験もなければ長ネギを育てる知識もない。しかし、栽培がなくなれば山あいの嶽へ行く人もいなくなり、ネギが育つ嶽の美しい景色を誰も見ることができなくなる。迷っているといつの間にか地元では「今度、ネギを作るんだってね」とあちこちで声を掛けられたと笑う。

地元JA女性部の板羽裕子さんに相談すると話がまとまり、高柳や市内在住のメンバー16名が集まり、中村さんの嶽の畑で長ネギを栽培する会が結成された。中村さんも加わり、肥料の発注や苗の手配、土づくり、ネギの栽培や収穫後の販売についての指導を担当してもらっている。ネギは、中村さんが春に土を耕して肥料を入れ、会のメンバーで畝を作り苗の植え付けを行う。その後は毎月1回土寄せや草刈りの作業を5回ほど行う。昨年は暑さで半分ほどの収穫だったが、今年も高柳町産業文化まつりや愛菜館などで販売を予定している。

作業は実際にやってみると「空気はいいし景色もきれい。みんなでワイワイ言いながら作業するのは楽しい」。畑へ行くまでの道すがら、泉さんは友人の春口敏栄さんと二人で枝を払ったり草刈りをしたり道普請にも精を出す。

「高柳の人たちには本当にお世話になったので力になれることはやろうと思っているんです」と花坂の棚田の水路整備や地蔵峠での秋祭りにも毎年参加。今後の展望に思いを馳せながら高柳の豊かな風土と自然を楽しんでいる。

高柳・嶽ねぎの会

